

第7章 外国人の人権について

(1) 外国人に関する人権の問題

問 17. 日本に居住している外国人に関する人権上の問題として、現在、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。(〇印はいくつでも)

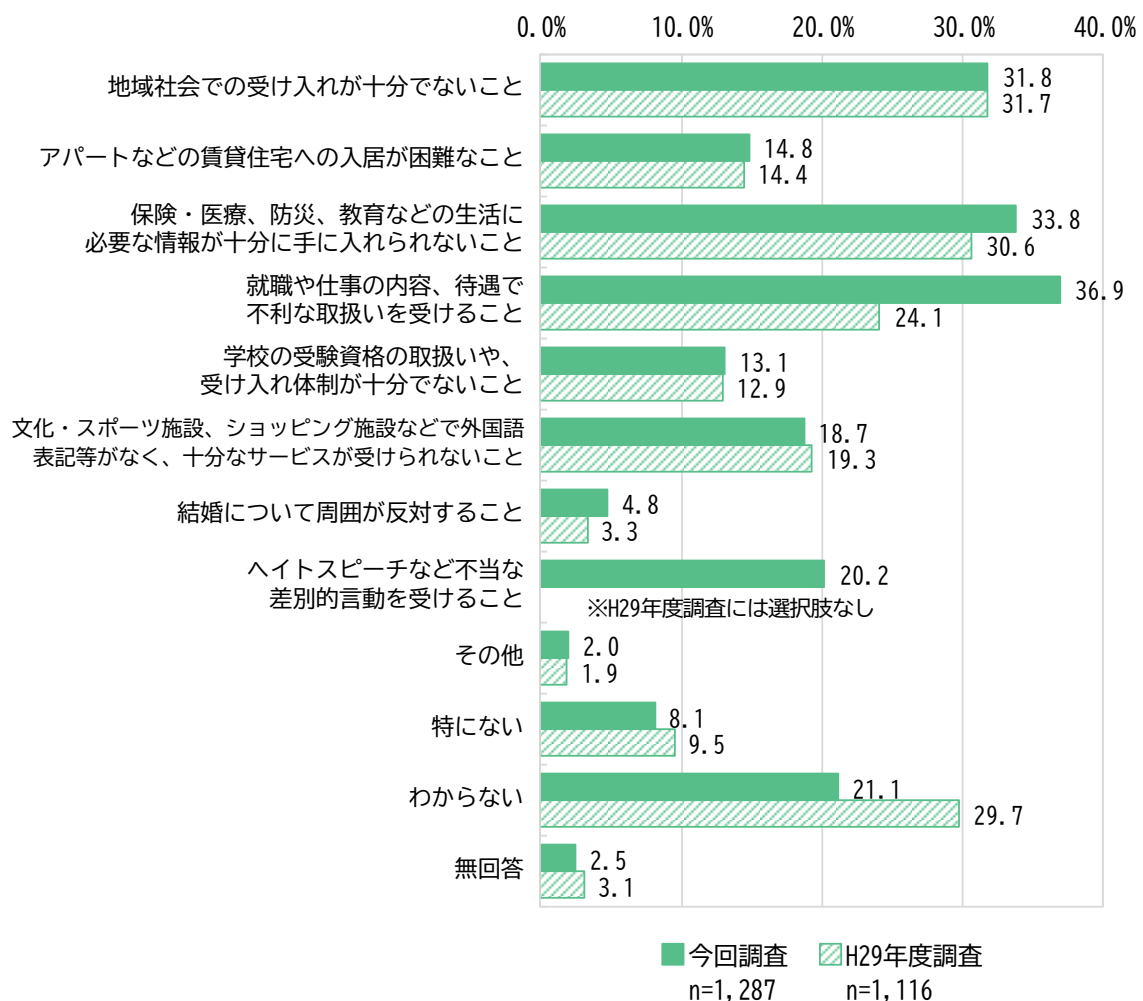
➤ 全体

「就職や仕事の内容、待遇で不利な取扱いを受けること」が 36.9%で最も多く、次いで「保険・医療、防災、教育などの生活に必要な情報が十分に手に入れないこと」が 33.8%、「地域社会での受け入れが十分でないこと」が 31.8%となっています。

➤ 平成 29 年度調査との比較

今回の調査では、「就職や仕事の内容、待遇で不利な取扱いを受けること」が平成 29 年度調査よりも 10 ポイント以上多くなっています。一方、「わからない」が平成 29 年度調査よりも少なくなっています。

図 7-1 外国人に関する人権の問題



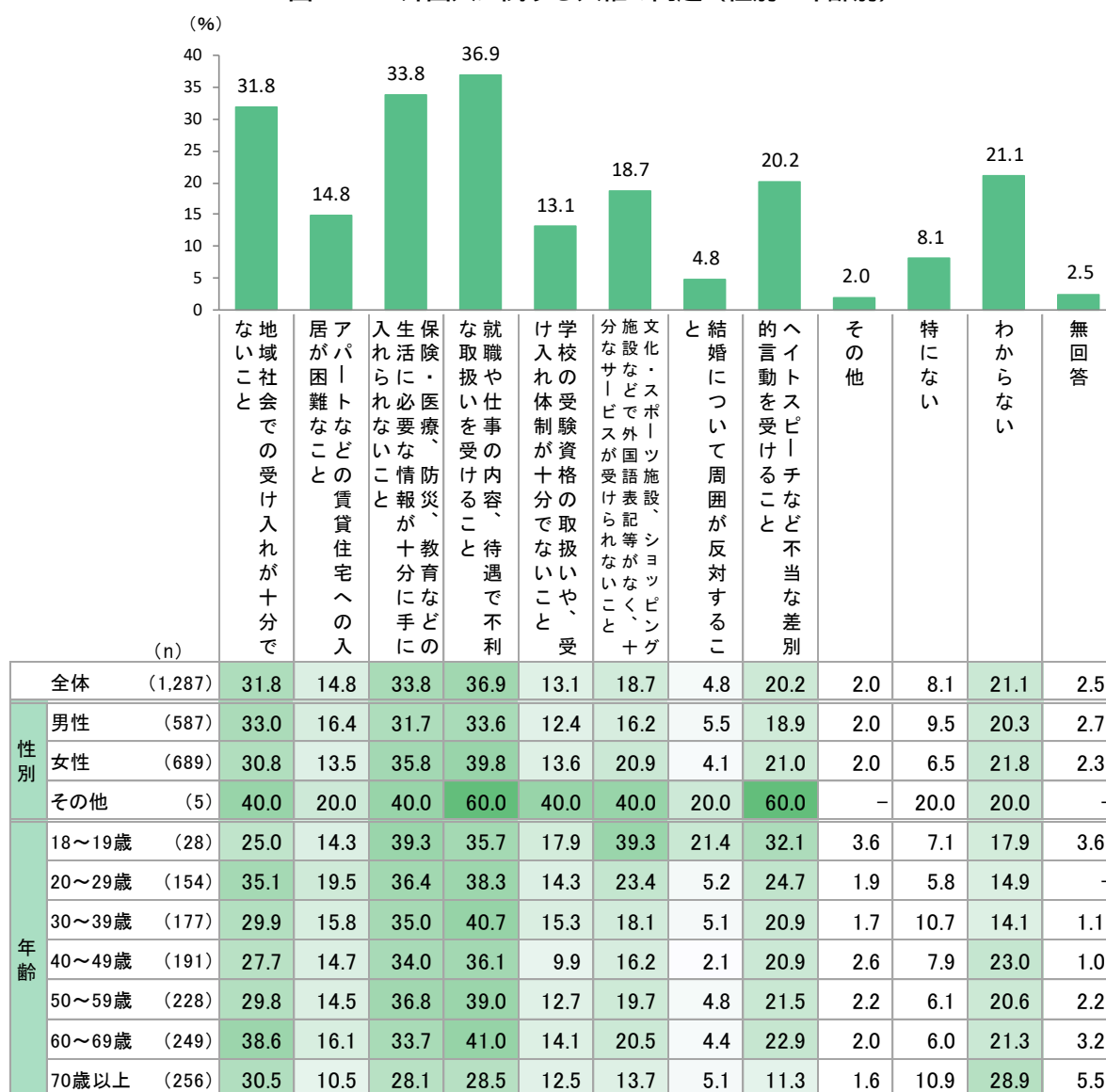
➤ 性別

“女性”で「就職や仕事の内容、待遇で不利な取扱いを受けること」が39.8%と、“男性”より多くなっています。

➤ 年齢別

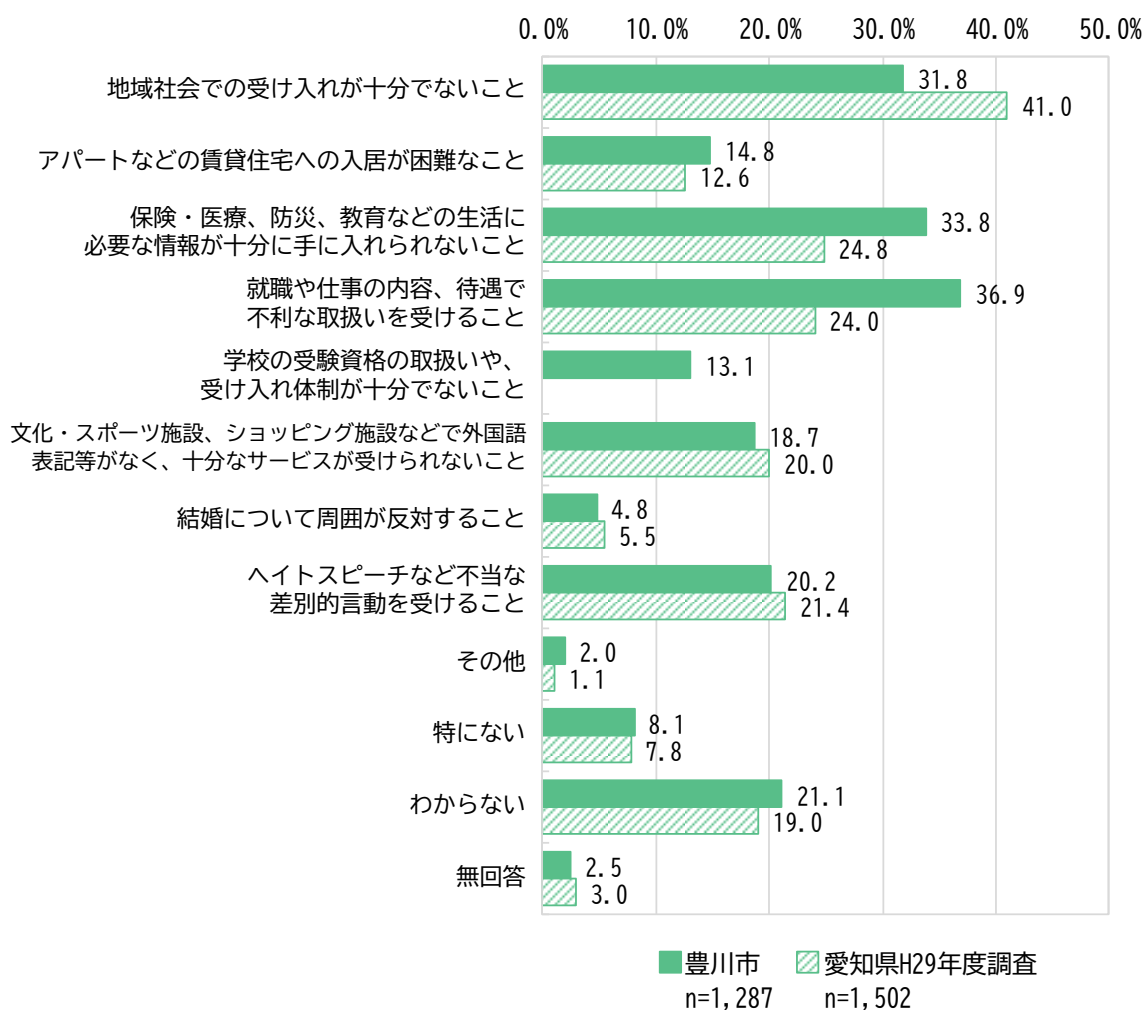
“18～19歳”で「文化・スポーツ施設、ショッピング施設などで外国語表記等がなく、十分なサービスが受けられないこと」(39.3%)と「ヘイトスピーチなど不当な差別的言動を受けること」(32.1%)と「結婚について周囲が反対すること」(21.4%)、“70歳以上”で「わからない」(28.9%)が、他の年齢層よりも多くなっています。

図 7-2 外国人に関する人権の問題（性別・年齢別）



➤ 参考 平成 29 年度愛知県調査との比較

図 7-3 外国人に関する人権の問題（平成 29 年度愛知県調査との比較）



(2) ハイトスピーチについて

問 18. ハイトスピーチが社会問題となっていますが、あなたは、ハイトスピーチについてどう思いますか。(○印は1つ)

➤ 全体

「よくないことだと思う」が 41.6%で最も多く、次いで「絶対にやめるべきだと思う」が 33.6%、「わからない」が 15.5%となっています。

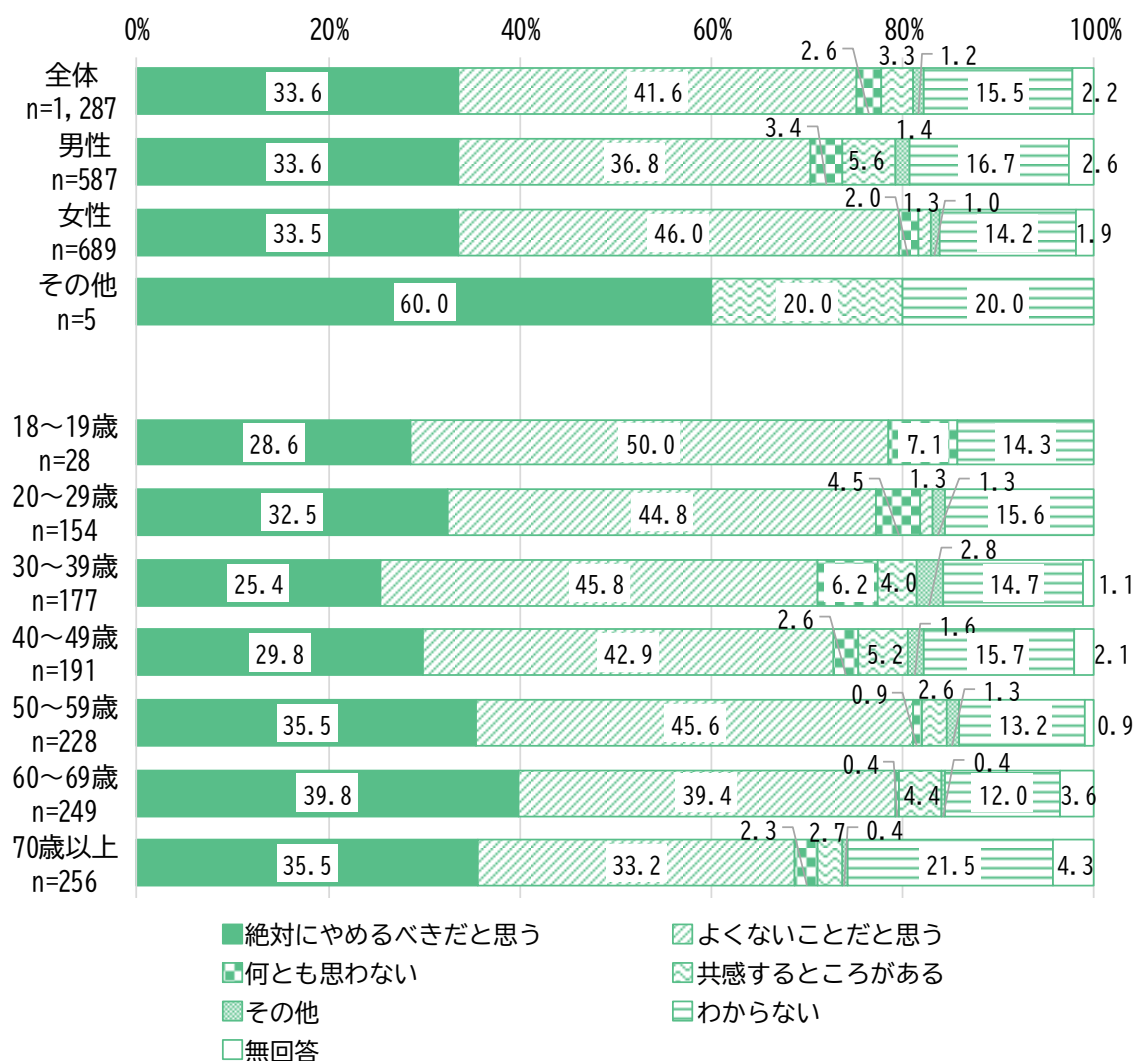
➤ 性別

“女性”で「よくないことだと思う」が 46.0%と、“男性”より多くなっています。

➤ 年齢別

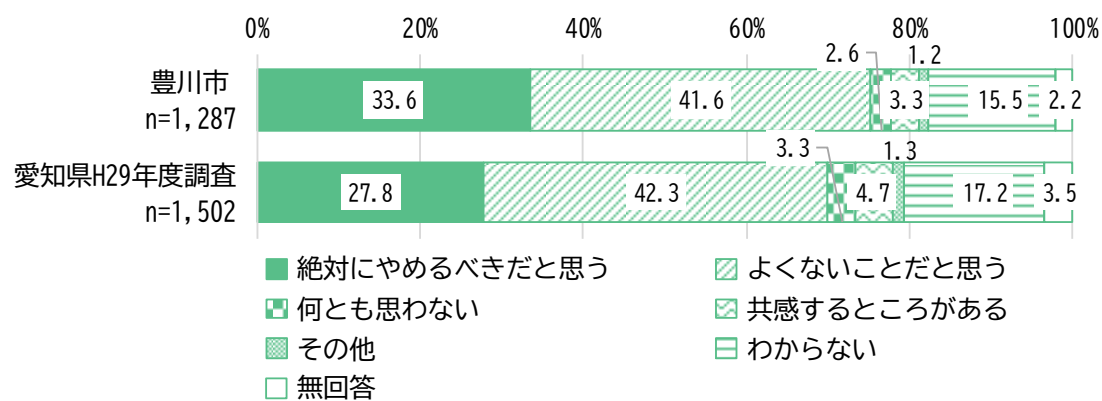
“18～19 歳”で「よくないことだと思う」(50.0%)、“60～69 歳”で「絶対にやめるべきだと思う」(39.8%)が、他の年齢層よりも多くなっています。

図 7-4 ハイトスピーチについて



➤ 参考 平成 29 年度愛知県調査との比較

図 7-5 ヘイトスピーチについて（平成 29 年度愛知県調査との比較）



(3) 外国人の人権を守るために力を入れていくべきこと

問 19. 外国人の人権が守られるために、どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇印はいくつでも)

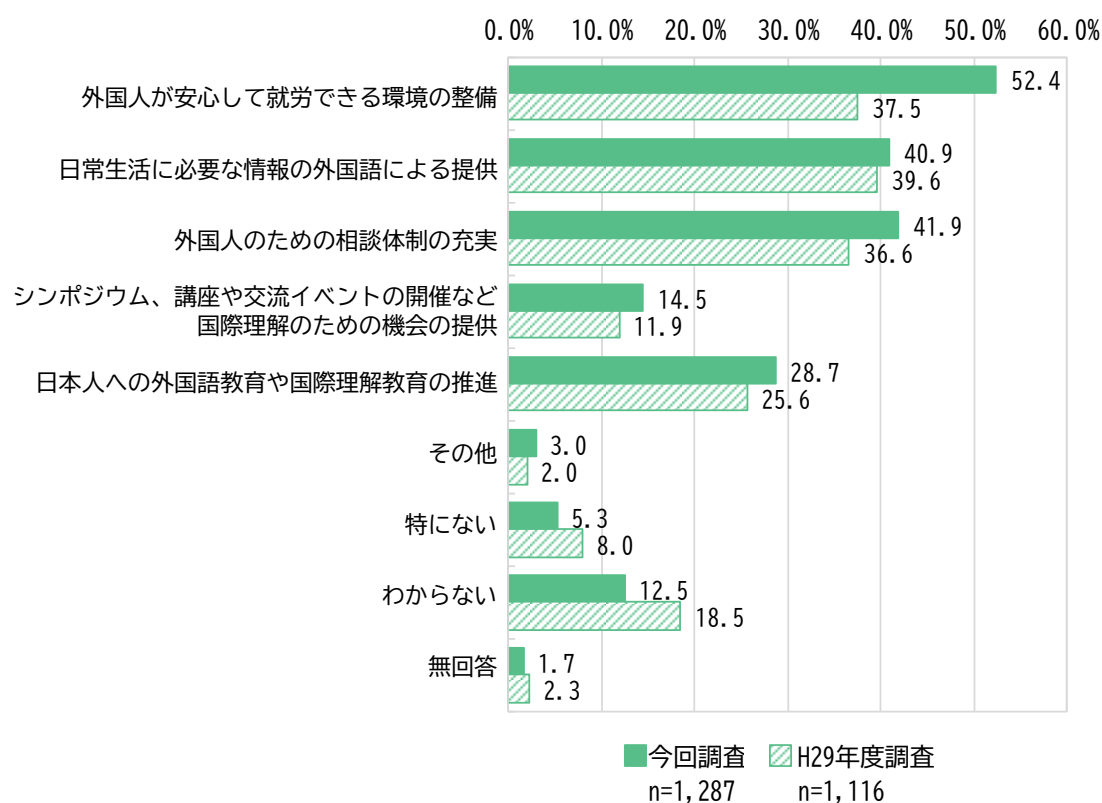
➤ 全体

「外国人が安心して就労できる環境の整備」が 52.4%で最も多く、次いで「外国人のための相談体制の充実」が 41.9%、「日常生活に必要な情報の外国語による提供」が 40.9%となっています。

➤ 平成 29 年度調査との比較

今回の調査では、「外国人が安心して就労できる環境の整備」が平成 29 年度調査よりも大幅に多くなっています。一方、「わからない」が平成 29 年度調査よりも少なくなっています。

図 7-6 外国人の人権を守るために力を入れていくべきこと



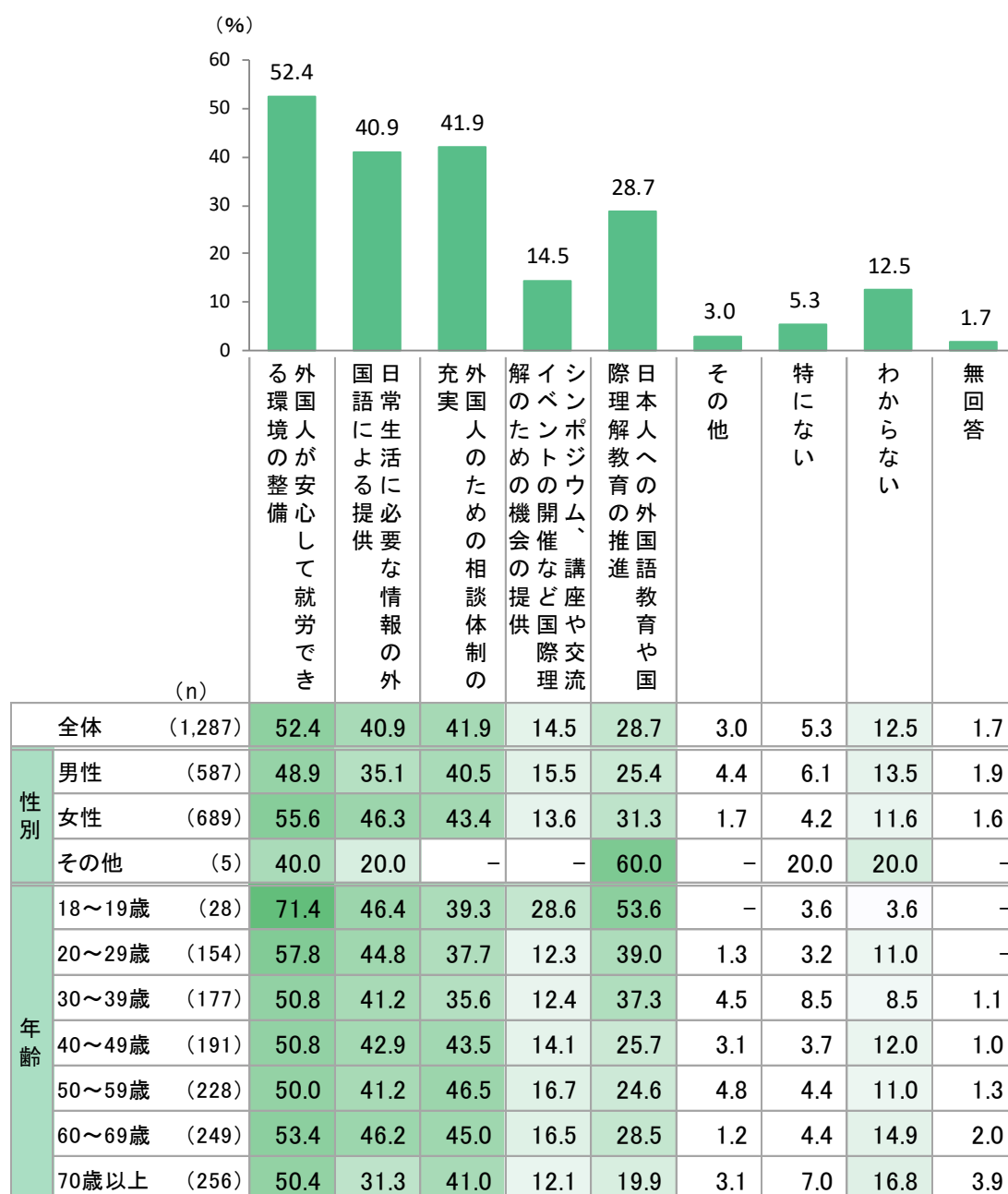
➤ 性別

“女性”で「外国人が安心して就労できる環境の整備」が55.6%、「日常生活に必要な情報の外国語による提供」が46.3%と、“男性”より多くなっています。

➤ 年齢別

“18～19歳”で「外国人が安心して就労できる環境の整備」(71.4%)と「シンポジウム、講座や交流イベントの開催など国際理解のための機会の提供」(28.6%)、さらに“20～39歳”を含めて「日本人への外国語教育や国際理解教育の推進」(37%以上)が、他の年齢層よりも多くなっています。

図 7-7 外国人の人権を守るために力を入れていくべきこと（性別・年齢別）



(4) 外国人との共生

問 20. 地域で外国人と共生するためには、あなたは何をすべきだと思いますか。
(○印はいくつでも)

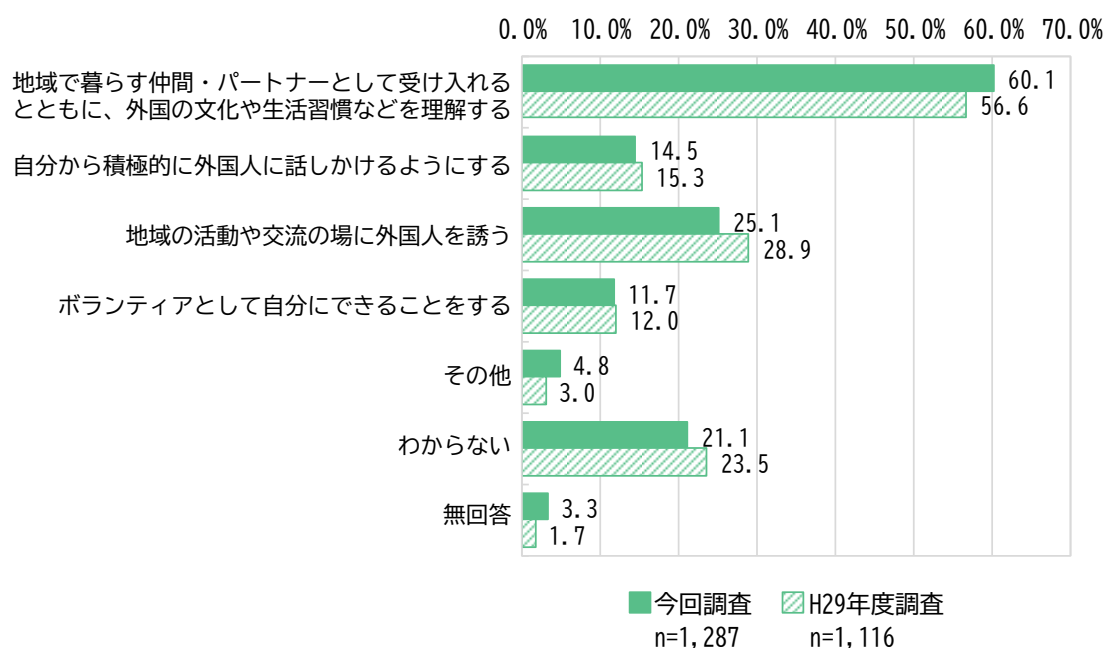
➤ 全体

「地域で暮らす仲間・パートナーとして受け入れるとともに、外国の文化や生活習慣などを理解する」が 60.1%で最も多く、次いで「地域の活動や交流の場に外国人を誘う」が 25.1%、「わからない」が 21.1%となっています。

➤ 平成 29 年度調査との比較

今回の調査では、「地域で暮らす仲間・パートナーとして受け入れるとともに、外国の文化や生活習慣などを理解する」が平成 29 年度調査よりも若干多くなっています。一方、「地域の活動や交流の場に外国人を誘う」が平成 29 年度調査よりも若干少なくなっています。

図 7-8 外国人との共生



➤ 性別

“女性”で「地域で暮らす仲間・パートナーとして受け入れるとともに、外国の文化や生活習慣などを理解する」が63.4%と、“男性”より多くなっています。

➤ 年齢別

“20～39歳”“50～59歳”で「地域で暮らす仲間・パートナーとして受け入れるとともに、外国の文化や生活習慣などを理解する」(63%以上)、“18～19歳”“40～49歳”で「地域の活動や交流の場に外国人を誘う」(31%以上)、“18～19歳”で「ボランティアとして自分にできることをする」(25.0%)が、他の年齢層よりも多くなっています。

図 7-9 外国人との共生（性別・年齢別）

